

「こんにちは」から始まる国際交流



かにえ国際交流友の会

Kanie International Friendship Association

会報 No.19 (March 2012)



KIFAクリスマス会にて (2011年12月11日)

Contents

- | | | |
|---|-----------------|-----|
| ☆ 会長あいさつ：藤田美保、 | ☆ 蟹江町長あいさつ：横江淳一 | 1 |
| ☆ 2011年度実施の主要行事一覧 | | 1 |
| ☆ 「モンゴル学生ホームステイ」受け入れ事業、ゲスト&ホストの体験談 | | 2~4 |
| ☆ 「人生の目的は何ですか？」(旧日本語教室受講者：加藤チャム) | | 5 |
| ☆ 「ベトナム旅行記 - テト体験記 (No.1 & No.2) -」(岡春代 & 八神里美) | | 5~6 |
| ☆ 国際理解講座「世界遺産の街、クエンカに住んで」感想と講演概要 | | 7 |
| ☆ KIFAの関連団体「たんぽぽ会の歩み」(中山好恵) | | 8 |
| ☆ ミャンマーの医療施設&エイズ感染孤児施設への継続寄付報告 | | 8 |
| ☆ 世界の国旗(モンゴル)、2012年度行事予定、企業・賛助会員一覧 | | 裏面 |

かにえ国際交流友の会設立 20 周年

会長 藤田美保



少し暖かくなり春めいたと感じたとたん、冬型に逆戻りの日が続いたりした不順な天候でしたが、「かにえ国際交流友の会」会員の皆様お元気でしょうか。また、企業会員、賛助会員の皆様には変わらずの支援をいただいていますことをあらためて感謝いたします。お陰さまでこの1年も当初予定の事業計画に沿って問題なく活動を終えること

ができました。

「かにえ国際交流友の会」が関心を寄せているミャンマーでは、民主化が進展しているように見えます。これに伴って経済状況が好転して、当会が継続支援している医療施設等にも、より多くの援助が向けられ充実して行くことを期待しています。

さて、当会は 2012 年度に 1992 年の創立から 20 周年を迎えます。今までも 5、10、15 周年の節目の年にはいろいろな企画で記念行事を行ってきました。この特別な 20 周年にはこれらの行事とは少し異なる「特別なもの」にしたいと種々の企画を考慮中です。蟹江町役場側の協力も得て、意義深く、興味深く、かつ楽しめるような欲張った企画を何とか実現したいと考えます。

この喜ばしい 20 周年ですが、当会の懸念の一つは役員会構成員の高齢化です。年々平均年齢が上がり、今では役員のおほとんどが還暦過ぎとなっています。もちろん私を含めて皆さんがんばっていますが、若い人の発想を取り入れ新しい事業計画等も立案していきたいと思っています。ぜひ、多くの若者が「かにえ国際交流友の会」に加わって運営に参画していただけるよう熱望する次第です。

かにえ国際交流友の会への期待

蟹江町長 横江淳一



かにえ国際交流友の会の皆様におかれましては、日ごろから地域の国際交流にご尽力いただき、心から敬意を表するとともに厚くお礼申し上げます。

KIFA の皆様は、外国人の方々との懇親会から町民まつりへの参加や語学教室まで、多岐に渡って活動しておられ、町域を越えた地域の国際活動の中核としてますます活発に活動されておみえにな

ります。

また、平成 24 年度に KIFA が設立 20 周年を迎えられますこと、心からお喜び申し上げます。こうして、20 年という長い間、日本人と外国人をつなぐパイプ的役割を担い、地域に根ざした国際交流活動を続けてこられたことは、皆様の日々の努力による成果と存じます。

さて、蟹江町は平成 22 年 3 月にアメリカ合衆国イリノイ州マリオン市姉妹都市提携を結び、中学生海外派遣交流事業を中心に行政、文化、教育などの分野においても交流を続けております。今後も、豊富な国際交流経験をお持ちの KIFA の皆様のご協力を仰ぎながら、蟹江町としましても国際交流事業により一層力を注いでいきたいと考えております。

最後になりましたが、KIFA が地域の国際交流の中心として、ますます発展されますようご祈念申し上げますとともに、会員の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

2011年度に実施した主要行事一覧

開催日	行事内容
2011年 4月 17日 (日)	総会・懇親パーティー、参加者：112名
6月 19日 (日)	親善ボウリング大会 (カニエボウル)、参加者：55名
8月 19日 ~ 21日	モンゴル学生 5 名のホームステイ受け入れ
10月 8日 (土)	蟹江町オータムフェスティバル参加・出店 (町役場前)
9日 (日)	同上
12月 11日 (日)	クリスマスパーティー、参加者：99名
2012年 3月 4日 (日)	国際交流関連講演会 講師：恵土夫妻「世界遺産の街クエンカに住んで」、その後「スペイン料理試食会」、参加者：120名
3月 31日	当会報 (No. 19) 発行

「モンゴル大学法学部学生の短期ホームステイ受け入れ事業」

2011年8月19日～8月21日

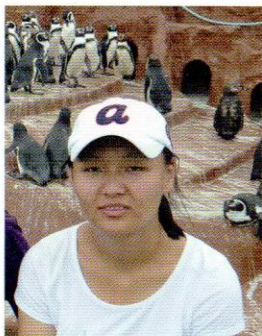
ホームステイのモンゴル学生と受け入れ先

氏名（英語表記）	名前（通称）	性別	受入先代表
Gankhuyag Davaanyam	ダワーニャム	男	加藤 俊博
Nyamsuren Norovsambuu	ノロブサンブー	男	服部 美恵子
Baterdene Turbat	トゥルバット	男	山田 昭文
Munkhbold Tsend Ochir	ツェンドオチル	男	山村 啓子
Buyanjargal Khongorzul	ホンゴルゾル	女	深山 敦祥

モンゴル学生ホームステイの感想（学生側と受け入れ家族側）

ホームステイの思い出

ホンゴルゾル



昨夏、名古屋大学で研修していた私たちモンゴルの学生は、愛知県蟹江町の「かにえ国際交流友の会」のメンバーの方々のお宅で8月19日から21日までホームステイをした。蟹江町の町長、副町長、ホストファミリーの心からの歓迎に私たちは大変感激した。歓迎会の時、かにえ国際交流友

の会のメンバーの人々は楽器を弾いたり、マジックを見せたりしてくださり本当に楽しかった。特に、モンゴルの国歌を弾いてくれたのは、私たちを大変驚かせた。私たちも文化発表を見せた。全員で「愛しい故国」という歌を歌ったり、ホーミーを披露したりした。

歓迎会の次の日は、一日中をホームステイの家族と一緒に過ごした。ご両親と子ども3人の明るい家族だった。モンゴルでは海がないので、最初に海を見に行った。海に着いて、限界を知らないほど豊かな水を見て感心した。波に足をを入れて遊んで、海の水も味わった。とてもしょっぱかった。海の近くの店で焼きそばを食べた。モンゴルのツォイワンという料理と似ていて私の口に合った。次に、私たちは水族館に行った。水族館では、イルカ、アシカなどのたくさんの魚や動

物を見た。特に、イルカのショーはとても面白くて、楽しかった。イルカは、どうやってこのようなことができるようになったのかと考えるだけで頭が痛くなるほどだった。そして、家に帰ってきた時、お母さんが晩ご飯としてギョーザを作ってくれた。私たちは色々なことを話しながら料理を食べた。とってもおいしかった。晩ご飯を食べてから、みんなで温泉へ行った。私は温泉が初めてなので、お湯がすごく熱くて入ることができなかった。なので、屋根がない少しお湯がぬるい温泉に入った。本当に気持ちがよかった。終日とても楽しくて、つまらない時間は一分とてなかった。

ホームステイの最終の日、家族と一緒に映画館へ行った。映画館でアニメを見た。私はアニメの内容が大体分かって、声優の言う言葉も予想できてとても嬉しかった。しかし、日本では映画館で映画を見る人は非常に少ないようで、私たちが見た映画も15人ぐらいの人しか見ていなかったもので、少しびっくりした。

ホームステイでは、私の今までの人生で初めてやってみたことがいっぱい、一生忘れられない思い出になった。明るくて親切な家族に迎えられ、短い間でも日本人の家族や日常生活を体験できて本当によかった。ありがとうございました。

（ほぼ本人による原文のまま掲載しています）

勉強熱心なモンゴルの学生、ホンゴルゾルさん

深山加代子

一昨年前の夏と二度目になりますが、モンゴルの大学生のホームステイを受け入れました。ホンゴルゾルさんはウランバートル市の20歳の素朴な女子学生でしたが、その勉強熱心なことに驚きました。ホンゴルゾルさんは法律と日本語を2年間がんばってきたの名大での研究発表をとっても楽しみにしていたそうです。でも彼女の発表の日を目指し教授は欠席でがっかりし

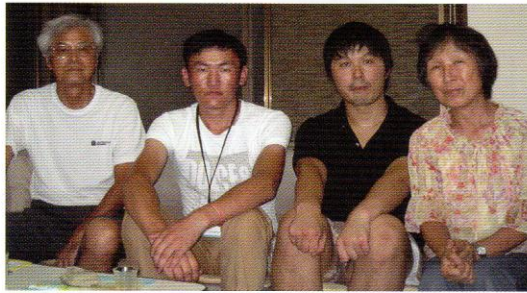
ていました。そしてお別れパーティーが名大で開かれた日、私達ホームステイの家族も招かれていましたが、美しい民族服に身を包んだ彼女が嬉しそうに報告に来ました。このパーティーで会いたかった教授を見つけて聞いたかった質問をすべてしたそうです。その輝いている顔を見てモンゴルの未来は明るいと思信したのです。

ノロブサンボー君を迎えて

服部美恵子

ノロブサンボー君はモンゴル大学法学部の学生で21歳。日焼けしているものの、端正な顔立ちで、細身ながら引き締まった体つきの若者でした。なにかスポーツをしているのかと聞いたら、大学のあるウランバートル市に来る前は、交通手段は馬だったそうで、乗馬が生活の中でスポーツの役割を果たしていたのだと妙に納得しました。そして今のウランバートルの暮らしは、都会的ですが、その前は、ゲルに住み、8人家族で遊牧民族として、移動する暮らしだった、家族は今も自給自足の生活を続けていると話してくれました。

1992年にモンゴルの憲法ができたので、名古屋大学の研修では、日本の法律についてしっかり学び、モンゴルの国の今後のため役立てたいということでした。国の期待を背負っての研修旅行のお手伝いが出来、ホストファミリーとして光栄に思ったことでした。モ



ンゴル大学卒業後は、米国へ留学したいという夢をもっており、英語をしっかり学びたいともっていました。彼の夢が実現できるように願わずにはられません。

KIFAの歓迎会でも披露しましたが、彼は、ホーミー(のど笛)が得意です。家族のためだけでもぜひとお願いしました。高原にさわやかな風が吹き渡るような音色で一同聴き入りました。

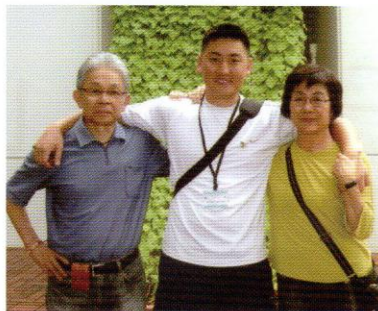
海を見たことがないという言葉には、主人も私もすっかり同情して、野間の灯台までドライブしました。海水をなめてみたり、海藻を珍しそうに手に取ったりしていました。息子は、若者同士、鉄道博物館へ出かけ楽しんでできました。お寿司も喜んでいと聞きました。

短い期間でしたが、発展途上の国の勢いを感じる青年と知り合え、家族一人一人がとてもよい体験をさせていただきました。ありがとうございました。

モンゴル学生オチルさんを受け入れて得たこと

山村啓子

長期留学生(AFS)を受け入れるようになって17年今回短期ではありますが、蟹江国際交流とのご縁で、一昨年につづき、昨年もオチルさんを、受け入れさせて頂きました。前回のバギーさんもそうでしたが、モンゴル



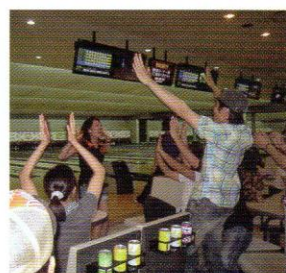
国立大学で日本語を学んでいるので、日常会話が大変上手で最初から意思の疎通

もスムーズにいきました。当日迎えに行つての第一印象は、背の高い体格のがっしりとした朝青龍を彷彿とさせる好青年でした。自国には海が無いので、海に行きたいとの希望で、知多半島に行き日間賀島に渡りました。彼は、とても問題意識が、旺盛で色々な面で、よく質問された事を覚えています。留学生一人ひとりに、思い出は深いのですが、共通するのは日本の伝統文化に対する興味と関心で有り、自国に対する深い愛情を感じました。帰り際に自筆の色紙を残していきました。

人生にとっても大切な三つのことがあると思う

- 一つは健康で有る
- 二つは家族で有る
- 三つは恋愛で有る

私達家族は彼から大切なことを学びました。彼は、将来名古屋大学大学院に留学出来るのが希望であると言っていました。こちらはお返しに私の大好きな一期一会の言葉を送りました。



親善ボウリング大会にて

総会でのアトラクション
"フラダンス"



KIFA日本語教室「日本語しゃべろう会」の案内

★火曜日クラス：毎週火曜日、10:30-12:00

場 所：蟹江児童館

連絡先：若山高義、Tel 0567-95-5291

★土曜日クラス：毎週土曜日、19:30-21:00

場 所：中央公民館(蟹江町役場裏)

連絡先：八神里美、Tel 090-9929-1260

受講料は無料です。詳細については上記の各担当者までご連絡下さい。

国際交流の皆様 こんにちは。娘が高校時代米国にホームステイした折ホストファミリーに可愛がられたことからいつか我家にも受け入れて恩返しをと思っていました。町の広報でモンゴル学生のホームステイを知り申し込みました。娘が結婚で出ていき部屋が空いていたのでタイミングがよかったのがあります。

初日役場公民館で初めて会ったときはモンゴル人とはちょっと違った体型でスリムなイケメン風な雰囲気ビクビクでしたが挨拶をやりとりしたら人懐っこい性格の持ち主でもういっぺんに外国人の壁は取り除かれました。ホームステイのもてなしは「特別なことはしない普段の生活が一番いい」と聞いていたので食事はいつも通りでモンゴル料理は作らなかったのですが彼はなにを出しても「おいしいお



いしい」と片言言葉で平らげてくれてほっとしました。最後の晩は町内の寿司屋につれていきましたがさすがにマグロなど生魚はダメでサラダ巻きやいなりを食べ

ていました。海のリクエストで新舞子へ連れていきましたが初めての海をいつまでも眺めていました。彼の話ではIT機器は日本と同様に普及しておりパソコン、デジカメ、携帯等は当たり前のように使いこなしており帰国してからもメール交換しています。今回のホームステイで感じたことは外国人という概念は心が通じあえば全く違和感がないということです。世界

中の方がみんな気持ちが一緒になれば地球上から戦争はなくなり、異国の文化が共有できるということをもっと知り貴重な体験でした。ありがとうございました。

私の感じた日本

自分の過ごした生活を一度繰り返して見ると、全部のことがそれぞれ関係があるという引用を思い出している。元々日本語を勉強しようと思ったきっかけは、日本の俳優である竹野内豊であった。高校生の時、竹野内豊の出演した”With love”と言う日本のテレビドラマを見た以後、日本語を勉強して是非竹野内豊と会いにいつか日本へ行くと言う関心を胸の中に抱いていた。そしてモンゴル国立大学法学の日本法コースに入って、日本語を勉強し始めて、2008年に夢が叶えられて名古屋大学の夏期セミナーに参加に日本に來られた。

初めて日本に來た時、発展した技術、食料などの大きいカルチャーショックを受けた。2週間と言う短い期間だったが、日本人の学生とホームステイをした日本人の家族から色々なことを学んで、大学を卒業し終わったら、是非日本へ留学に來ると言う約束をして、国へ帰った。その後3年間一生懸命頑張っておかげで、日本に留学することになった。

今日本に來てまだ6ヵ月であるが、日本と言う国また日本人について少々分かるようになってきました。日本に住む一番良いことは、安全で、人々が皆親切であることだろうと思っています。分からないことがあったら皆親切に言ってくれたり、困っている時に親切に手伝ってくれたりするなどが一番気に入っています。またここに来て気付いたことは、物をする時完全にす

る日本人の性格である。何をしても、自分の力を入れて、一生懸命する日本人の良い性格から勉強して、自分に実行しようと思っています。

物が裏と表があるように、良いものがあるにもかかわらず、分かるのは難しいこともある。それは日本の元々に文化に関連があるかも知れないが、日本人が他の人に対して何かを直接に言わないことである。自分の意見を言う時にも、人に腹を立てている時にも、お願いしている時にも直接に言わずに、間接に言うのは外国人のような私たちにこの性格を受け入れるのは難しいと感じています。このように色々な異文化を感じていますが日本と言う大きい国から勉強することがたくさんあるのでここに学んだことを持って、できるだけ国に伝えたいと思う。日本人の皆さんもこれからよろしくお願ひします。

ほぼ原文のまま。ムンフバイガリさんは2009年8月に名大の夏期セミナーに参加し、前述の深山加代子さん宅に今回のような短期ホームステイしました(会報No17参照)。その後、上記にあるように名大大学院に留学しました。

ムンフバイガリ
名大大学院法学研究科学生



名古屋大学夏期研修のモンゴル大学法学生短期ホームステイ受け入れ(予定)

モンゴル学生の皆さん、ホームステイ先で有意義なまた興味深いひと時を楽しんでいるようです。恐らくこの8月にも名大から依頼されると思います。ホームステイゲストを未だ受け入れたことのない方、この機会に新しい国際交流の経験をされては如何でしょう。ホストファミリーの予約受け付けています。

加藤チャム

子どもの頃（ころ）を思い出すと、学校に行った時、いろいろな事をやりたいことがありました。夢（ゆめ）の実現（じつげん）のためにみんなに自分の意見（いけん）を聞いてもらったり、みんなの意見をきいたりして、早く大人（おとな）になりたかったです。自立（じりつ）への最初の一步（いっぽ）は、自分で決められることです。それが大人（おとな）になる第一歩です。自分の生活に責任を持つことが出来てから、いいこと悪（わる）いことの区別（くべつ）が出来ようになりました。大人（おとな）になれば、成功（せいこう）も失敗（しっぱい）も自分の責任です。失敗に会うときは、だれでも気持ちが落ち込みます。



初（はじ）めて日本に来た時、いろんなことに悩みました。言葉や文化、生活習慣（せいかつしゅうかん）にとまどいました。ボランティアの日本語教室を見つけて良かったと思いました。毎週土曜日の夜に多くの外国人が日本語お教えてもらっていました。ここで大きな家族（かぞく）が出来ました。先生たちのおかげで、みんなが勉強して日本語がじょうずになりました。教室に通っていた時は自転車で行きました。遠（とお）

い国から来て、日本人のような生活がしたかったので、車の免許をとるために自動車学校に入学しました。そして無事（ぶじ）に卒業出来ました。その時、自分の力と気持ちが集中（しゅうちゅう）しました。

自動車学校では日本語で勉強するのでとても苦労しました。平針試験場（ひらばり・しけんじょう）のテストでは2回落ちました。最初の結果発表（けっかはっぴょう）の時はすごく緊張（きんちょう）しました。あと2点あれば合格でした。とても悔（くや）しかったです。諦（あきら）めないように

頑張（がんば）らなければと思ひ続（つづ）け、3回目（だいさんまい）にやっと合格しました。

努力してよい結果を得（え）られることは嬉（うれ）しいことです。そんな気持ちをもって毎日を送っています。難（むづか）しくて困ることにあう時は、成功するまで頑張（がんば）ってやります。だれもがこのように考えるなら、楽しく、幸せになれると思います。加藤チャムさんはベトナム研修生として来日。日本語教室（土曜日クラス）で勉強。その後帰国。現在、日本人と結婚。とても頑張（がんば）り屋さんです。上記の原稿は基本的に原文のままです。（写真の右：チャムさん、中央：八神さん、左：岡さん）

ベトナム旅行記 — テト体験記 (No.1) —

岡春代

ベトナムの新年は、花とともに！ ベトナムの今年の“テト”は、1月23日。この日から1週間が“お正月休み”です。ふる里に帰る人。一方で家族や親戚を迎える人。一般的に“テト”をむかえるためにどの家も、もち米に緑豆と豚肉の入ったちまきもち「バイン・チュン」や、筍の煮物・鯉の煮付け・ベトナム風ハム「ゾー」といったおせち料理を作るのに忙しい。そして花の準備もします。玄関にはキンカンに似たみかんの木の鉢植が、その奥には“テト”の花「黄色の梅（ホアマイ）の盆栽が必ずといってよい程置いてあります。部屋には黄色の菊がいっぱい生けてあります。私たちがホームステイしたタオさんのお宅もそうでした。



街では、路上に花売り屋が並び黄輪菊、ひまわり、マリーゴールドなど黄色の花があふれています。（ちなみに黄色は幸せを呼ぶといわれています。）公園や広場は、色々な花で飾られています。日本の菊人形に似たアオザイ姿の花人形や、花々で型どったドラゴン等々。なにしろ熱帯性植物のため色あざやかで種類も豊富です。夜もイルミネーションで輝き、期間中はオールナイトです。大晦日の夜、AM0：00タオさんの家の屋上で花火を見て「ハッピーニューイヤー！」。そ

のあと車でお寺にお参りに行きました。日本の初詣のようなもので境内は人でいっぱい。むせかえるほどの線香の煙。タオさんのご主人はキンカンの実を三つ取って願い事を…。AM2：00ごろ帰宅。

正月、昼は花ひろばをタオさん、タンさんと散策。ホーチミン市で一番おいしいという評判の「アイスクリーム」を食べました。花ひろばには、正月以外にも行きました。フックさん夫妻、ジャップさん、アンさん、ハイさん、チュンさんもいっしょに散策。喫茶店でベトナムコーヒーを飲みながら、日本での思い出話に時間がたつのも忘れてしまいました。ホーチミンの人たちには、“テト”に花はなくてはならない風物詩です。

ビンさんは、明日の朝ハノイの両親の元に行くとかで、仕事を終えて夜遅く私たちに会いに来てくれました。私たちは、ジャップさんといっしょに帰国したチュオンさんが、酒店を経営していると聞きタンさんの田舎に行く途中、寄ることになりました。このように今回の旅行では、帰国したみなさんの温かい歓迎をうけ感謝です。みなさん、ありがとう！！



世界遺産が世界一多い国スペイン、情熱の国、闘牛・スペイン・ダンス、このようなイメージをもって恵土孝一さん、真理さんのお話をききはじめました。旅行ではなく、一年間スペインで暮らした方の体験談はとて興味のあるものでした。関心の高さから、用意されたイスはすぐに一杯になってしまいました。

ご夫妻は画家である孝一さん、ヴァイオリニストの真理さんという芸術家であり、その上芸術を愛するお国柄、日本から来たお二人はスペインの人達にとっても、大変興味深い存在だったようです。一日中いろいろな種類の音楽が聞こえてくるような国で、多くの家庭に招かれ、親交を結ばれたようでした。スペイン語を話される孝一さんは30年ほど前に一年間マドリー

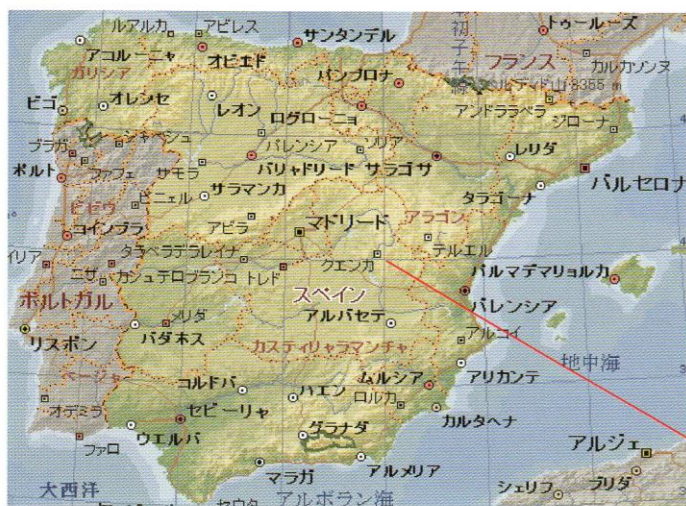
ドで絵の研修をされた経験をおもちのことでした。やはり言葉も大切なんだと実感しました。真理さんにとってはヴァイオリンが言葉だったのでしょね。お住まいの旧市街で行われるほとんど毎晩の催し、家から見下ろせる4日間の牛追い祭り、クリスマスから復活祭にいたる各種のキリストに関する催しなど。きっと一年間はあつと言う間に過ぎたことでしょう。牛追い祭りでは、いつの間にか真理さんも牛を追込む役目の中におられたとのことで、現地に溶け込まれていらっしゃる様子がわかりました。バレンシア風パエリア、スペイン風オムレツ、チュロスも試食で味わうことができました。とてもおいしかったです。ほんとうにありがとうございました。

国際理解講座

世界遺産の街「クエンカ（スペイン）」に住んで

中央公民館1階研修室、3月4日（日）13：30～15：30

講師：恵土孝一・真理さん夫妻

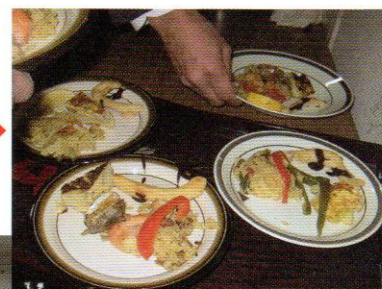


マドリッドの東南東約150kmに位置するスペイン中央部の町であるクエンカは「歴史的城壁都市」として知られ、その旧市街が1996年ユネスコの世界遺産に登録された（位置は左の地図参照）。人口はおよそ5万人余り。フール川とウエカル川にはさまれた険しい崖の上に石造りの家がところ狭しとびっしり建っている。ウエカル川の断崖の上に建てられている「宙吊りの家」が有名である。

マドリードからは、鉄道や高速道路で日帰り旅行や週末旅行ができる。NHK-BSの番組「世界ふれあい街歩き」でも紹介された（2011.11.10 放映）。

クエンカ

講演後の試食会で一皿に盛りられた「ヴァレンシア地方のパエリア」「スペイン風オムレツ・トルティージャ」「チュロス（お菓子）」のセット



ご夫妻交代しつつ説明



聴衆 120 名余りで大盛況の講演会場



スライドによる解説

2008年12月、ある飲食店から出発。日本社会に馴染みたいと願う外国人主婦とその家族、子どもたち、地域協力者により、ミャンマー出身の上山まりを会長として発足しました。ここに発足後2年の『たんぼぼ会の思い』（原文）を紹介します。

2010年（ねん）12月（がつ）5日 みなさまへ
『たんぼぼ会の思い』

日本（にほん）でしごとや子（こ）そだてをがんばっている外国（がいこく）のママたちに役（やく）にたつことをしてあげたい気持ち（きも）ちいっぱいたんぼぼ会（かい）が生（う）まれました。たんぼぼのように強（つよ）くきれいな花（はな）をいっぱいさせられるようにと思（おも）いこの名前（なまえ）をつけました。今年（ことし）で2年（ねん）がたち、これは信用（しんよう）・信頼（しんらい）・理解（りかい）して応援（おうえん）してくれた たくさんの方（とも）だちのおかげだと思（おも）っています。外国（がいこく）のママたちにもっと日本（にほん）の社会（しゃかい）や文化（ぶんか）を学（まな）び希望（きぼう）をなくさず前向（まえむ）きに生（い）きて行ってほしいと願（ねが）っています。



2011年の主な活動を以下に紹介します。

日本語教室 毎月（日曜日 午後2:00～4:00）
2回開催、現在「楽人」町なか交流センターで開催（楽人チラシにて開催日確認願います。）

今後も継続中、日本語会話、平仮名、漢字など勉強されたい方参加お待ちしております。

1月 外国人医療健康診断の参加と呼びかけ

4月「花見」持ち寄り料理で盛り上がる。同時に防災マップ、非常用持ち出しリストを配布して、防災を喚起



6月「まりさんの食卓」ミャンマー料理とデザートを試食会開催町なか交流センターブログにも掲載され



多くの参加者の皆さんに感謝。

10月「まりさんの食卓」レモングラスを使って、生葉ならではの香りよいレモングラスのお茶と料理を楽しみました。大変好評で、次回の開催をご期待ください。

かにえ国際交流友の会（KIFA）さまのご支援と皆様の参加、ご協力に感謝します。

補足) 「たんぼぼ会」は KIFA とは別の組織で、独自の活動を行っていますが、これからも可能な限り協力して活動できることを望みます。

海外支援活動

継続して援助を続けている「ジャパンハート」ミャンマー診療所（吉岡医師）と、「HHHP」（“Happy Haven Humanitarian Project”：エイズを患っている孤児の収容施設）の両施設に今年度も合わせて10万円余りを寄付しました。寄付していただいた匿名希望の会員の方と、現地で手渡していただいた磯部正弘氏に感謝いたします。



「ジャパンハート診療所」（2010年8月訪問時の写真）「HHHP ヤンゴン施設」



「秋祭り」に出店
「たんぼぼ会」の出店



クリスマス会にて



「サンタは誰かな？」

世界の国旗：モンゴル国



左側（竿側）の模様はソヨンボと呼ばれ、1921年の中国からの独立運動の頃はこの模様だけの旗を使っていた。模様全体で自由と主権を表している。現在の国旗は1992年2月、共産党独裁を放棄した新憲法で制定されたものである。

KIFAイベントボランティア募集

右記の行事、イベント等でお手伝いして頂ける方を募ります。各役員の方まで声をかけて頂ければ幸いです。よろしくお願ひします。

2012年度の主な年間行事予定

日 時	行 事
2012年4月15日	総会、懇親パーティー
6月17日	親善ボウリング大会
8月下旬	モンゴル留学生ホームステイ受け入れ予定（2泊3日）
10月6, 7日	蟹江町民秋まつり参加
12月9日	クリスマスパーティー開催
2013年2月17日	かにえ国際交流友の会創立20周年記念事業予定
3月末	会報（No. 20）発行予定

KIFA主催の通年教室（講座）

日本語教室（無料、外国人向け）、英会話教室
ポルトガル語教室（本文中に各案内あります）

ご協力ありがとうございました。引き続きご支援をお願いします。

企 業 会 員

蟹江住宅設備（株）

蟹江ライオンズ倶楽部

（株）アマダトーヨー

賛 助 会 員

アソビックスかにえ	イマニ外国語教室	宇佐美自転車商会	甘強酒造（株）
共同建設（有）	（株）クリンテック	（株）近藤溶接	月星歯科クリニック
日光鋳工場（株）	松屋呉服店	丸信製粉（株）	（有）宮長食品
味彩もへの	弥富高校	龍照院	（株）若菜
渡辺豊店	呉服専門の店いとり		

KIFA ホームページ <http://kifa.la.cocan.co.jp>

☆☆ 編 集 後 記 ☆☆

KIFA会報は通常年1回、3月末に発行されます。その内容は当会の年間行事関連報告等と、広い意味での「国際交流」関連の寄稿記事を中心に構成されています。記事等は常時受け付けていますので、どうぞ右記の宛先までお寄せ下さい（ふ）。

発行：かにえ国際交流友の会

会長：藤田美保

TEL: 0567-95-9724 / 052-872-5855

E-mail: fujita@nsc.nagoya-cu.ac.jp

事務局：蟹江町役場政策推進課内
〒497-8601 蟹江町学戸3丁目1番地
TEL: 0567-95-1111, FAX: 0567-95-9188